

平成 30 年度

熊本市エイズ総合対策 報告書

平成 31 年（2019 年）4 月

熊本市保健所 感染症対策課

熊本市エイズ総合対策 報告書

目次

1	平成30年度熊本市エイズ総合対策 概要	1
2	エイズ及び性感染症関係統計	2
3	平成30年度 熊本市エイズ対策事業報告	
(1)	平成30年度 熊本市エイズ及び性感染症対策事業	5
	①正しい知識の普及啓発（青少年、MSM、一般市民、他）	
	②相談検査体制の充実	
	③医療体制及び生活支援体制	
	④推進体制の整備	
(2)	平成30～34年度(2022年度)HIV感染および性感染症の予防対策（評価）	10
	①HIV抗体検査数の増加	
	②性器クラミジア感染症報告数の減少及び梅毒報告数の減少	
(3)	平成30年度 検査利用者の状況について（受検者アンケート結果）	12
（参考資料）		
●	統計「エイズ及び性感染症の動向」	15
●	情報「エイズ動向委員会報告2019年3月」から抜粋	20
○	委員長コメント（平成30年 年間報告（速報値））	
○	表2 平成30年12月30日現在のHIV感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計	
○	表3 HIV感染者及びエイズ患者の都道府県別累計報告状況	
●	熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱	23
●	熊本市エイズ対策のあゆみ	25

別冊1 平成30年度 各団体での取り組みについて(報告)

別冊2 平成30年度 ボランティアグループとの取り組みについて

1 平成 30 年度熊本市エイズ総合対策 概要

■本市の状況

(1) HIV感染者・エイズ患者の現状

- ① 累計のHIV感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者数の割合について、28年は26.3%、29年は16.7%と低く早期発見が進んでいると示唆されていたが、30年は40%と高かった（全国は約30%で推移）。今後も啓発を強化実施していく必要がある。
- ② 新規HIV感染者・エイズ患者報告数は、近年、年約10件程度で横ばい傾向にある。今後の感染予防と感染の早期発見のため、青少年への啓発を強化するのに加え、大人に対しても知識と意識の向上を図る必要がある。
- ③ 感染経路としては男性同性間の性的接触が最も多い。MSM（男性と性行為を行う男性をいう。以下同じ）への啓発に力を入れる必要がある。

(2) エイズ相談・HIV抗体検査件数

平成28年4月の熊本地震以降、検査体制を縮小しており、平成30年のエイズ相談・HIV抗体検査数は、1,197件と減少している。

(3) エイズ対策事業（トピックス）

① 特例検査・臨時検査の実施

定例の夜間・日曜検査を休止していることから、休日・夜間の特例検査・臨時検査を年6回実施した。（前年度4回から夜間1回、休日1回増加）

② MSM当事者グループとの協働

熊本のゲイ支援サークル「Safety Blanket」との取組みを行った。今年度は、連絡会や担当者間のミーティングを重ねながら、学習交流会の開催を軸に取り組みを行った。今後も特に若いMSMへの啓発手法について検討を行い、取り組みを継続する。

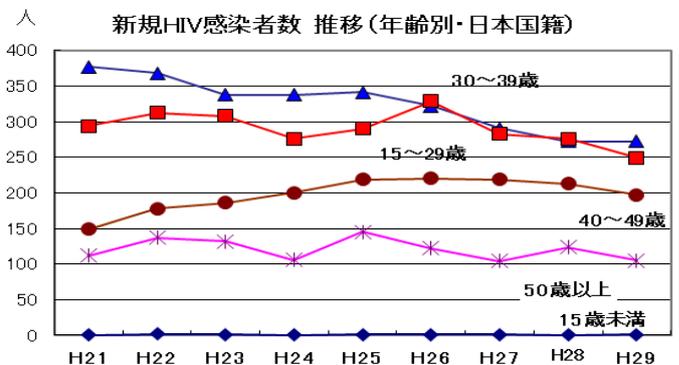
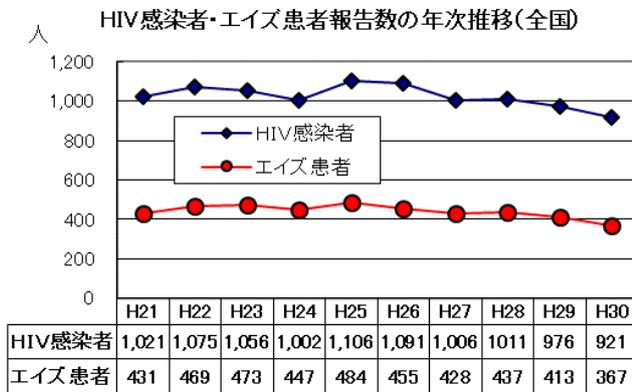
■エイズ・HIV感染症 最近の動向（全国）

- (1) 新規HIV感染者と新規エイズ患者報告数について、平成29年より減少しており、2年連続で減少した（速報値）。また、全体に占めるエイズ患者数の割合は、約3割で推移している。
- (2) 感染経路としては性的接触によるものが8割を占めている、HIV感染症は予防が可能な感染症であり、感染していない方は適切な予防策をとること、感染した方は、まずは自分の感染を知ることが今後感染拡大防止のために重要である。

2 エイズ及び性感染症関係統計

* 全国の30年は速報値

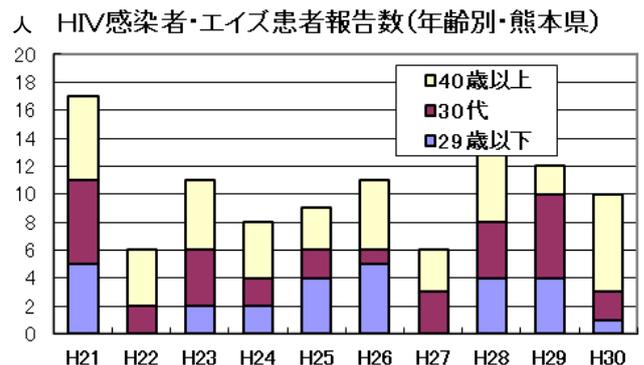
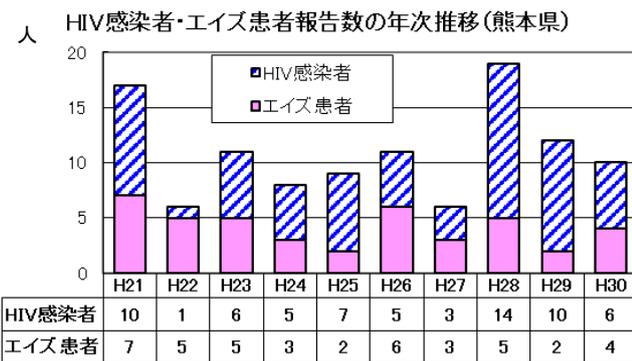
(1) HIV感染者及びエイズ患者報告数推移(全国)



新規HIV感染者と新規エイズ患者報告数について、平成29年より減少しており、2年連続で減少した。

15歳未満を除く全ての年代で、報告数が減少した。

(2) HIV感染者及びエイズ患者報告数推移(熊本県)



年により増減があるものの、概ね年10件程度で推移している

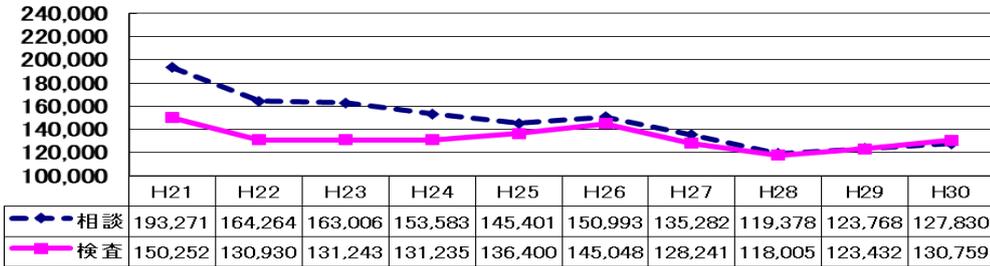
平成30年の新規報告は、40歳以上が7割を占めた。

HIV感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者の割合	熊本県	全国	東京
累計(昭和60年～平成29年)	38.8%	31.0%	23.1%
過去5年(平成25～29年)	31.6%	29.9%	20.1%
平成29年	16.7%	29.7%	21.1%
平成30年	40.0%	28.5%	17.0%

熊本では、HIV感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者の割合が全国に比べ高い傾向にある。平成29年の報告数に占める新規患者数の割合は、16.7%と全国に比べ低い値だったが、30年は40%と高かった。

(3) 保健所などにおけるエイズ相談・検査件数(全国)

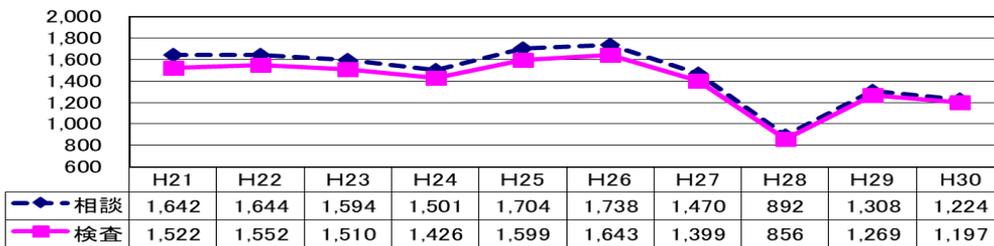
件 保健所などにおけるエイズ相談・検査件数(全国)



平成22年以降、年14~12万件程度で推移している。

(4) エイズ相談・検査件数(熊本市)

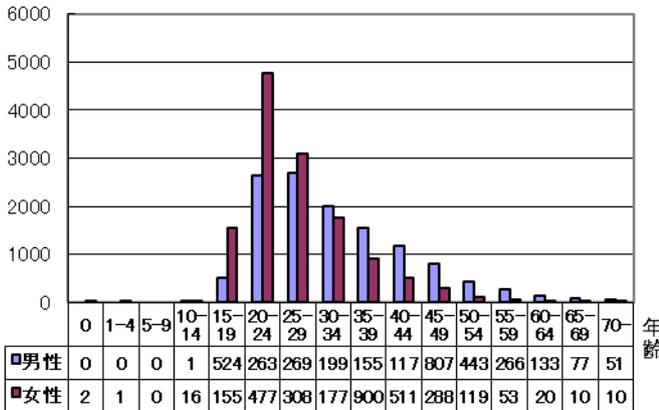
件 エイズ相談・検査数の推移(熊本市)



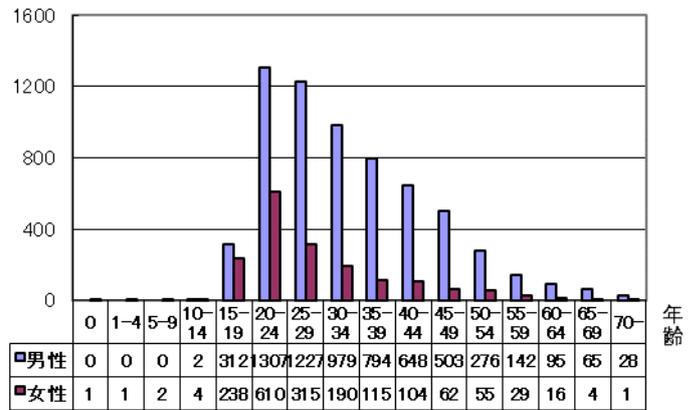
平成28年は、熊本地震の影響で前年の6割程度の検査数だった。
平成30年は検査体制縮小の影響で1,197件にとどまっている。

(5) 性器クラミジア・淋菌感染症 定点医療機関報告数(全国・熊本市)

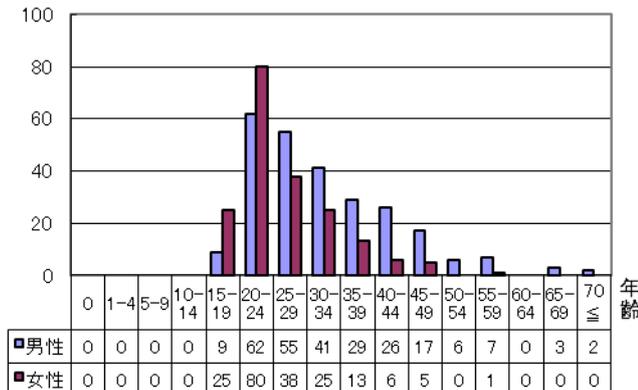
30年 性器クラミジア感染症 定点報告数(全国)



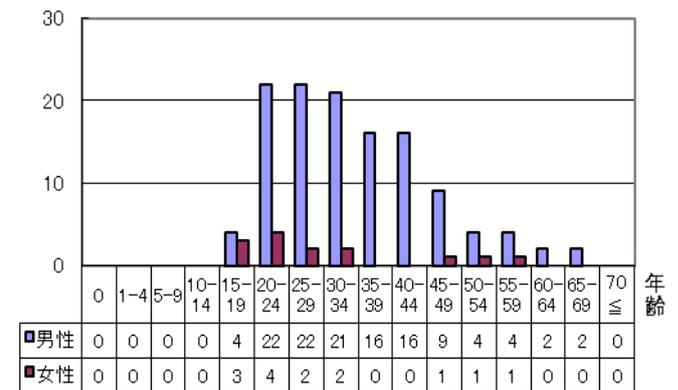
30年 淋菌感染症 定点報告数(全国)



30年 性器クラミジア感染症 定点報告数(熊本市)

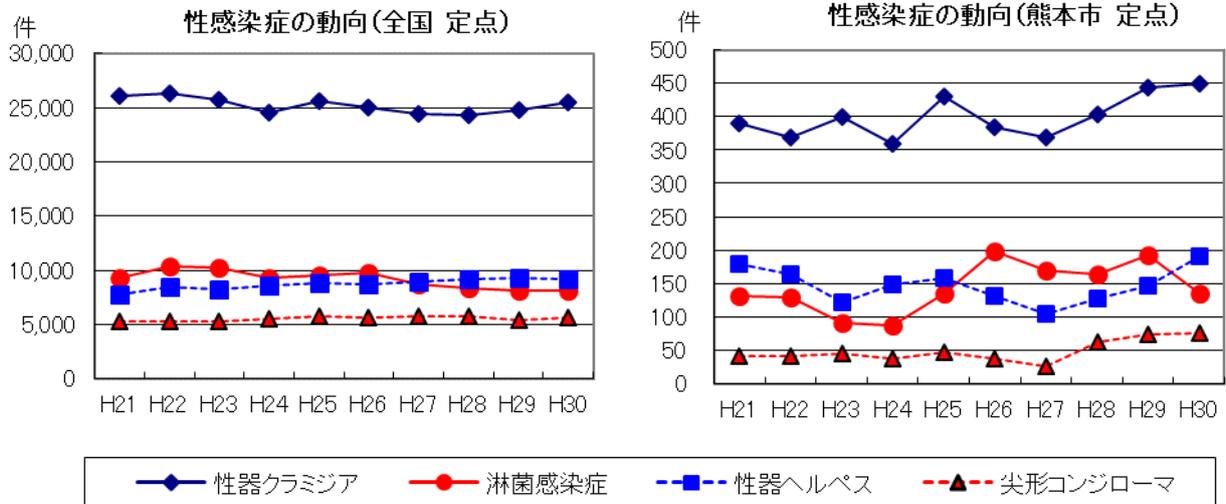


30年 淋菌感染症 定点報告数(熊本市)



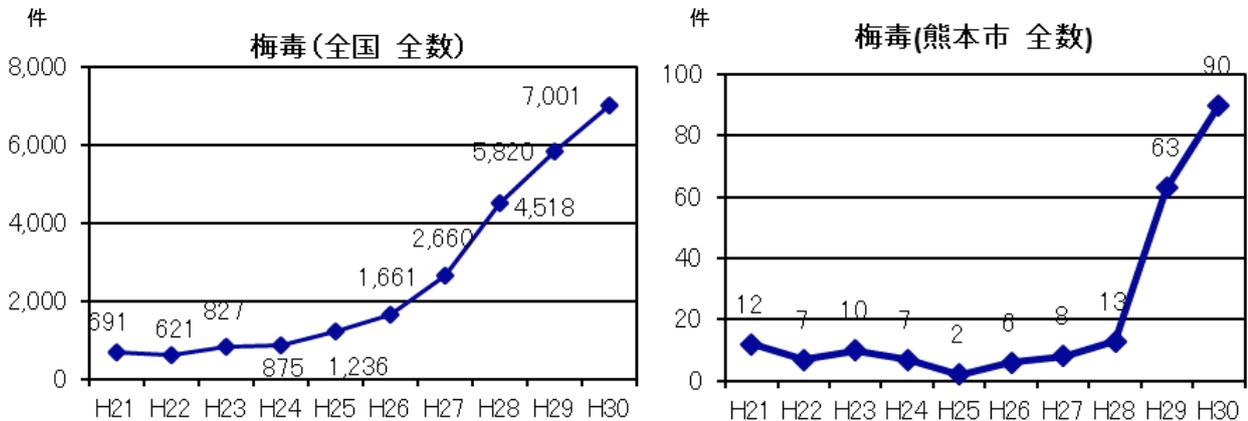
性器クラミジアは10代後半~20代前半は女性の方が多かったが、20代後半以上では男性の方が多かった。淋菌感染症はほとんどが男性で、特に20~40代前半に多かった。

(6) 性感染症(定点把握)の動向(全国・熊本市)



全国的に4疾患とも、平成21年頃からほぼ横ばいで推移している。熊本市では、クラミジア、ヘルペス、コンジローマが27年から増加傾向にある。

(7) 梅毒(全数把握)の動向(全国・熊本市)



全国的に大きく増加している。熊本市でも29年以降、大幅に増加している。

※定点把握：STD定点医療機関から月1回の報告により、発生状況を把握。(熊本市STD定点数6)
 ※全数把握：梅毒は、診断した医師からの7日以内の届出により把握

出典 (全国、県の統計：厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告)

3 平成 30 年度 熊本市エイズ対策事業報告

(1) 平成 30 年度 熊本市エイズ及び性感染症対策事業

① 正しい知識の普及啓発

個別施策層への対策及び広く一般市民に向けての啓発を行った。

【青少年】 教育委員会や学校と連携し、大学生ボランティア等と協力しながら実施した。

【教育関係】

- 高校・専門学校への講師派遣事業 10 回 2,263 人（高校 6、専門 4）
- 出前講座（性感染症予防講座） 16 回 2,157 人（中学 16）
- 直接依頼による性教育講話 1 回 220 人（大学 1）
- 市教育委員会「性に関する指導」研修会での情報提供（講話、啓発物配布、パネル展示）市立小・中学校担当教諭対象 2 回（8 月、11 月）

【啓発活動】

- 高校文化祭・大学学園祭でのキャンペーン【別冊 2 参照】
 - 3 高校 3 日間 361 人（東稜高校、第一高校、必由館高校）
 - 1 大学 1 日間 50 人（熊本大学）
- アンケート調査による若者の実態把握（高校、大学でのキャンペーン時）361 人
- ピアエデュケーターとの協働 熊本大学保健学科、養護教諭養成過程学生 10 人
（熊本大学ピアカウンセリンググループ「くまびあ」）
- 学校での巡回パネル展「HIV×（日常）×わたし。」 高校 3 校

【啓発物作成・配布・貸出し】

- 中学生向けオリジナルパンフレット 改訂・出前講座時に配布 16 校 2,311 部
- 啓発物配布（キャンペーン、研修会、見学実習など）
- パンフレット提供（購入分） 各団体、学校、事業者等へ
- 教育用 DVD 貸出し 1 ヶ所 2 回（児童相談所）

【外国人】 外国人受検者向けに英語の説明プリントを作成（国際課が監修）、活用した。

- 外国人受験者向け検査前説明プリント及び結果説明プリントの新規作成、活用
- 外国語パンフレット配布
- 市ホームページ掲載（英語版）

【MSM（男性間で性行為を行う者をいう。以下同じ）】

セクシュアリティに配慮しながら啓発活動や検査相談事業を行っている。また、MSM当事者グループとの協働により様々な取り組みを行った。

【ボランティア団体との協働】

熊本のゲイ支援サークル「Safety Blanket」との情報交換やゲイ当事者対象の交流会兼勉強会を企画実施した。【別冊2参照】

- ネットワーク連絡会 1回（1月）：それぞれの活動状況等について情報交換（Safety Blanket、熊本大学医学部附属病院エイズ診療関係者、熊本県、熊本市）
- 担当者打合せ（随時）：情報交換や打合せを継続実施
- 学習交流会の開催：ゲイ・バイセクシャル男性のみのクローズで実施。（3回）
- 啓発物配布：コンドームやチラシをゲイバーやゲイクラブイベントで配布。

【相談室】

- パンフレット及びステッカー添付コンドームの陳列（持ち帰り自由）

【ホームページ】

- HIV検査の案内記事へ、関連情報とともに、ゲイ・バイセクシャル男性向け情報も掲載。

【性風俗産業従事者利用者】一般市民へのアプローチを行う中で情報収集や啓発を行っている。

- 検査相談利用時に個別に情報提供
- 店舗型性風俗特殊営業所の責任者へ保健所窓口でパンフレット等を配布

【薬物乱用者】一般市民へのアプローチを行う中で、情報収集や啓発を行っている。

- 情報収集

【一般市民】働く世代の若者を主ターゲットに、関係各課や各種団体、ボランティアグループ等と協力しながら、啓発物の配布・掲示やキャンペーンを行った。

- 【出前講座】（働く世代） ●事業所等： 1回 30人

【研修会等への協力・参加】

- 平成30年度HIV診療医師情報網支援事業 HIV感染予防と早期発見、早期治療に関する打ち合わせ会2018（熊本大学医学部附属病院、4/25）
- 平成30年度HIV感染症/AIDS症例検討会（熊本大学医学部附属病院、3/27）

【マスコミ】

- 広報：ラジオ8回
- 市政だより：6月号、12月号
- 取材対応 ・テレビ3回 ・新聞 4回

【啓発物作製・配布】

- HIV検査案内チラシ・カードの作製・配布 随時
- エイズ予防啓発ポスター
 - ・HIV検査普及週間・エイズデー啓発ポスターによる啓発 2回
 - ・特例検査お知らせポスターの掲示・送付 4回
- ウエルパルクまもと1階ロビーに啓発パンフレットを配置（常時）
- 保健所、区役所でのパンフレット・啓発物配布（必要時）
- HIV検査広報ステッカー掲示
 - ・本庁舎トイレ、ウエルパルクまもとトイレ、市電・バス車内への掲示（継続）
 - ・事業所、学校等への提供 随時
- 熊本市歯科医師会から同会会員へ啓発パンフレットの送付

【イベント】

- エイズフォーラム「世界で熊本で、今、エイズを考える」
 - ・6/9（土）JICA九州デスク熊本との共同企画により、講演会、ワークショップを行った。また、会場にてパネル展を開催した。
- 学校保健会主催イベント「からだの楽校」での啓発キャンペーン
 - ・10/21（日）熊本市学校保健会（健康教育課）主催イベントにて小学生及び保護者向けのキャンペーンを実施。ボランティア（学生）4人が参加。
 - ・（内容）ブースでの啓発（エイズクイズ、パネル展示）
- 街頭エイズキャンペーン（TSUTAYA書店三年坂店）
 - ・12/22（土）大学生ボランティアと啓発物配布、ワークショップ、ステージイベント（バイオリン演奏、トーク）を行った。

●巡回パネル展「HIV×（日常）×わたし。」

- ・TSUTAYA 書店三年坂店 地下1階カフェスペース（12月）
- ・研修会会場等6回、市外2ヶ所
- ・ウェルパルクまもと1階玄関ホール（6月、12月）

【ホームページ】

●熊本市ホームページ及び携帯電話ホームページサイトを利用した情報発信、ホームページ内容の改善・随時更新

※熊本市ホームページ内「HIV（エイズ）検査のお知らせ」（スマートフォン対応）

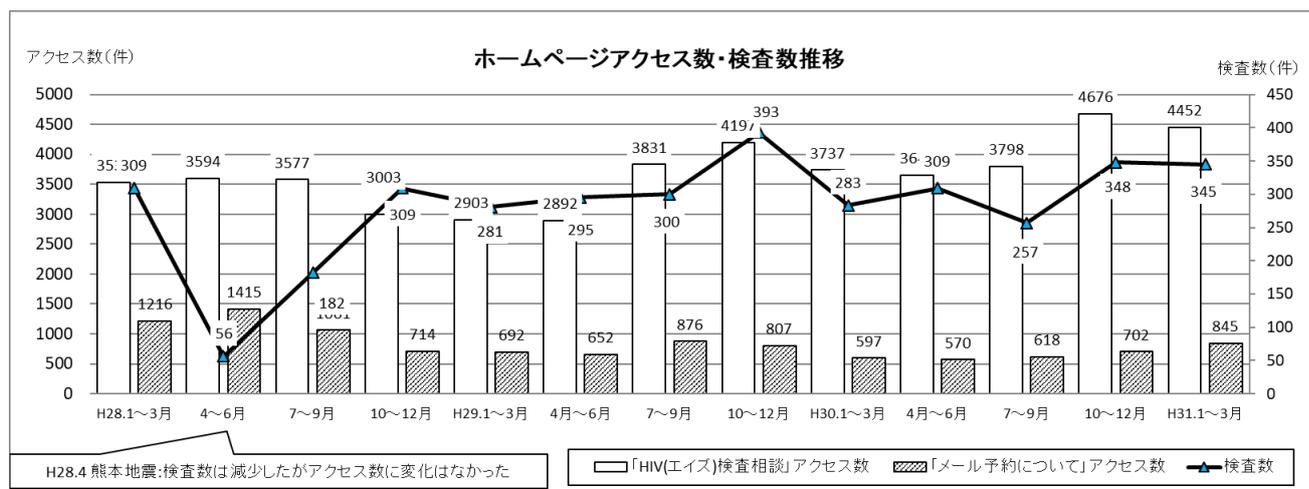
URL https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/Detail.aspx?c_id=5&id=3355



●アクセス数（件） （スマートフォン用QRコード⇒）

「熊本市HIV（エイズ）検査相談」 30年 15,859（月あたり約1,322）

「メール予約について」 30年 2,487（月あたり約207）



②相談検査体制の充実

【検査相談体制】

●エイズ相談・検査 熊本地震による業務縮小の影響により、定例の日曜・夜間検査を休止し、通常検査を予約制で行った。

通常検査（予約制）	月～金曜日	9：00～11：00
即日検査（予約制）	月～金曜日	13：00～15：00

●特例検査・臨時検査 土曜・日曜・夜間に即日検査を臨時で行った（6回※）。

- ・6月10日（日） 13：00～14：00（予約不要） 受検者 62人
- ・7月27日（金） 17：30～20：30（予約制：定員 20人） 受検者 12人
- ・10月1日（月） 17：30～19：30（予約制：定員 20人） 受検者 15人
- ・12月1日（土） 13：00～14：00（予約不要） 受検者 44人
- ・12月9日（日） 13：00～14：00（予約不要） 受検者 40人
- ・3月10日（日） 13：00～14：00（予約不要） 受検者 61人

※昨年より2回増

●メール予約 平日午後（13：00～15：00）の即日検査が対象

- ・利用実績30年：予約成立数 138件（平日即日検査数1,021件の13.5%）

※メールでの問合せ数（予約不成立含む）197件

【30年実績（件）】

相談数 1,224 検査数 1,197 クラミジア抗体検査 1,086、梅毒検査 1,104

- ・夜間（再掲）相談 25 検査 25 ・日曜（再掲）相談 167 検査 167
- ・即日（再掲）相談 1,021 検査 1,021

【相談業務の充実（研修会参加等）】

- 「HIV 検査相談研修会（東京）」エイズ予防財団 8/30, 31（2日間）1名
- 「平成30年度エイズ対策研修」国立保健医療科学院 9/11～14（4日間）1名
- 「九州ブロックエイズ拠点病院研修会」国立病院機構九州医療センター
10/12（1日間）1名
- LGBTに関する勉強会の実施（協力：Safety Blanket）2/26 5名

③医療体制及び生活支援体制

【医療体制】 検査陽性時に拠点病院の受診に同伴（希望時）

感染者・医療担当者との情報交換

【生活支援体制】 必要時、ホームヘルパー等にHIVに対する正しい知識を提供

【福祉制度】 身体障害者手帳及び更生医療による医療費助成・福祉サービス

※申請窓口：障がい保健福祉課

④推進体制の整備

【熊本市エイズ総合対策推進会議】

会議 8 月開催、報告書作成、エイズ対策の目標値（指標）の実動計画、実施

【NGO とのパートナーシップ推進】

ボランティア団体との協働、情報提供（研修会など）

（２）平成 30～34 年度（2022 年度）H I V 感染および性感染症の予防対策（評価）

指標及び目標値

1 HIV 抗体検査数の増加

（現状）平成 29 年：1,269 件 ⇒（目標）平成 34 年（2022 年）：1,780 件

2 性器クラミジア感染症報告数の減少

（現状）平成 29 年：430 件 ⇒（目標）平成 34 年（2022 年）：324 件

3 梅毒報告数の減少（新規）

（現状）平成 29 年：63 件 ⇒（目標）平成 34 年（2022 年）：10 件

①HIV 抗体検査数の増加

【施策（実施内容）】

●相談検査体制の充実

- ・ 予約不要の休日検査（特例検査）を実施
- ・ プライバシーに配慮した体制、相談員研修の充実、メールによる予約受付

●検査に関する広報の充実

- ・ ホームページ改善、ポスター、ステッカー、検査啓発カード等の作成・配布
- ・ 高校・専門学校への講師派遣時に感染症対策課職員が熊本での現状と検査について講話
- ・ 学校でのキャンペーンや街頭キャンペーンでのアピール
- ・ Safety Blanket による広報（SNS 等）、ゲイコミュニティへの啓発物配布

【実績】平成 30 年は相談数、検査数ともに前年より減少した。即日検査の割合が前年より増加した。

年	H29 【基準】	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022) 【目標】
H I V抗体検査数 (件)	1,269	1,197				1,780
(再掲)通常検査 (件)	200	176				
(再掲)即日検査 (件) (検査数に占める即日 検査の割合)	1,069 (84.2%)	1,021 (85.3%)				
エイズ相談数 (件)	1,308	1,224				



【評価】検査態勢縮小の影響で検査数が減少している。今後は、検査数の増加だけでなく、リスクグループ（青少年、MSM等）の利用をいかに増やしていくかに焦点を当てた取組みを行っていく必要がある。

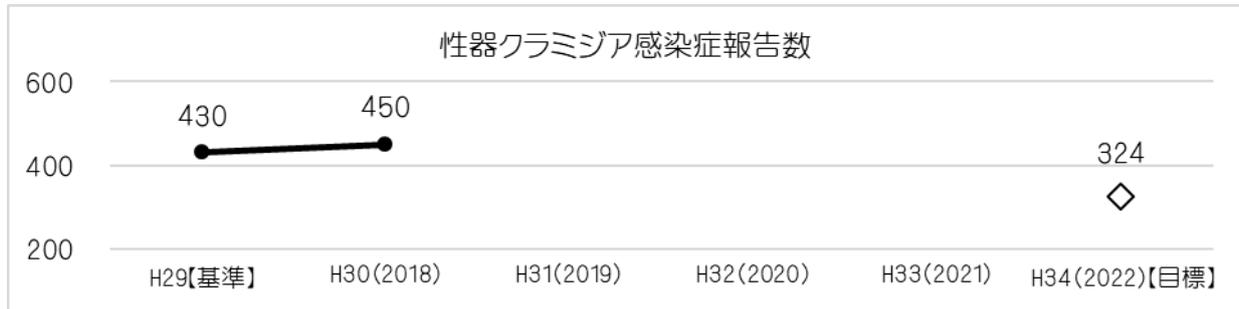
②性器クラミジア感染症報告数の減少及び梅毒報告数の減少

【施策（実施内容）】

- 性感染症予防教育の実施：中学3年生、高校生等への出前講座、高校への講師派遣事業、保護者や企業等への研修会等のアプローチ
- 高校・専門学校への講師派遣時に感染症対策課職員が熊本での現状と検査について講話
- 性感染症啓発チラシ及びパンフレットの作成・配布

【実績】平成30年は、どちらも前年より増加した。特に梅毒の増加が顕著であった。

年	H29 【基準】	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022) 【目標】
性器クラミジア感染症報告数 (件)	430	450				324
梅毒報告数 (件)	63	90				10



【評価】全国的にも性器クラミジア感染症報告数は横ばいで推移しており、梅毒は急増している。今後も引き続き報告数減少に向けて取り組む必要がある。

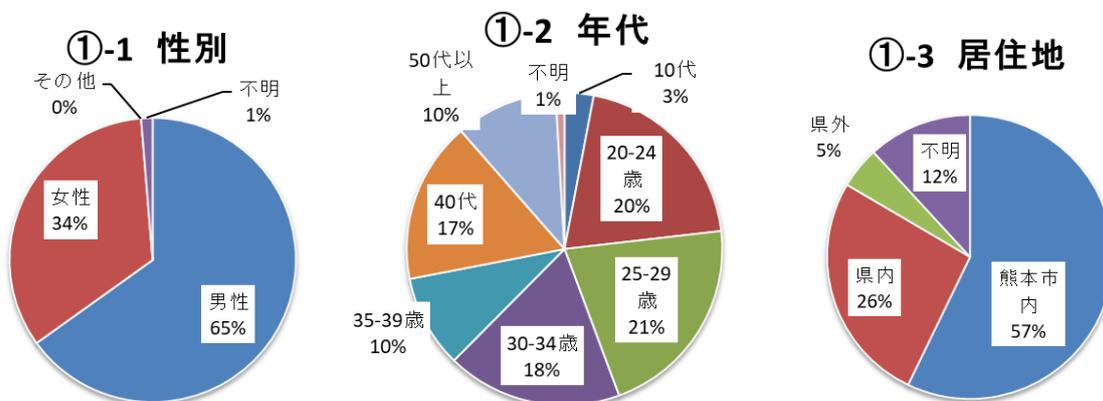
（３）平成 30 年度 検査利用者の状況について（受検者アンケート結果）

平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月に即日検査（特例検査除く）を利用した方へ、結果通知後に任意でアンケート調査を行った。アンケートの回収はアンケートボックスにて行い、個人が特定されないことを周知した上で回答してもらった。

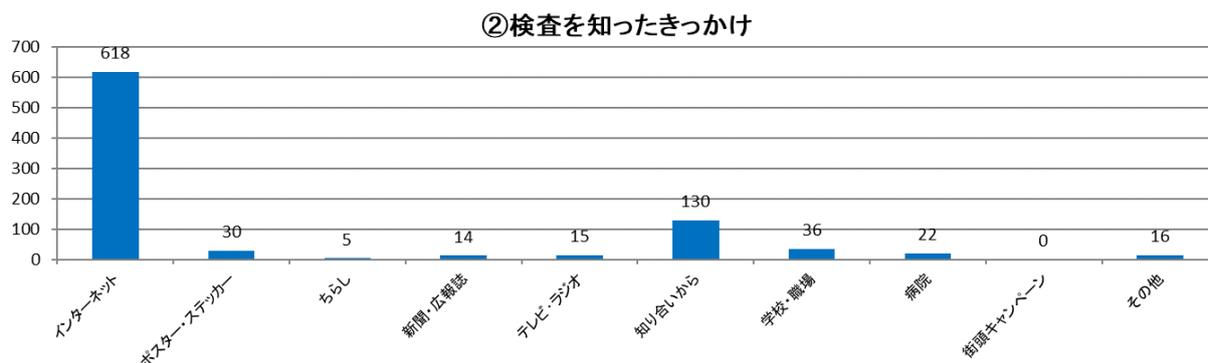
【結果概要】30 代以下の利用が 7 割以上あり、ターゲットとしている若い世代への啓発が比較的効果的にできていると考えられた。検査を知ったきっかけとしては、インターネットが最も多いことから、今後も、ホームページの工夫や、SNS 等を活用した啓発を続けることが望ましい。また、約 3 割の方が 2 回以上、本市保健所を利用しており、安心して受けられる体制であることが浸透していることが示唆された。

【アンケート結果】アンケート回答数 771 件（対象検査数 807 件、回答率 95.5%）

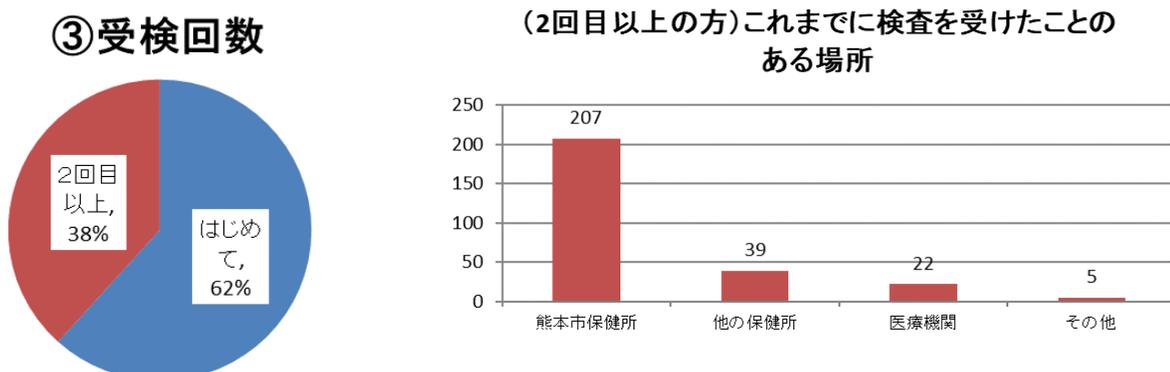
①利用者の属性：男性が全体の65%を占めていた。10代では女性の割合が多く、20代は男女同程度、30代以上は男性の割合が多い傾向にあった。全体の57%が市内にお住まいだった。



②検査を知ったきっかけ：インターネットが最も多く、次いで知り合いから（口コミ）が多い。インターネット検索に至った背景として、潜在的にはポスターやチラシ、報道等による広報の効果もあると考えられる。



③受検回数：65%の方がはじめて検査を受けていた。2回目以上の方は、ほとんどが本市保健所を利用しており、定期的な受検ができていると考えられた。また、他の保健所や医療機関との回答もあり、ニーズに合わせて様々な検査の機会を利用していた。



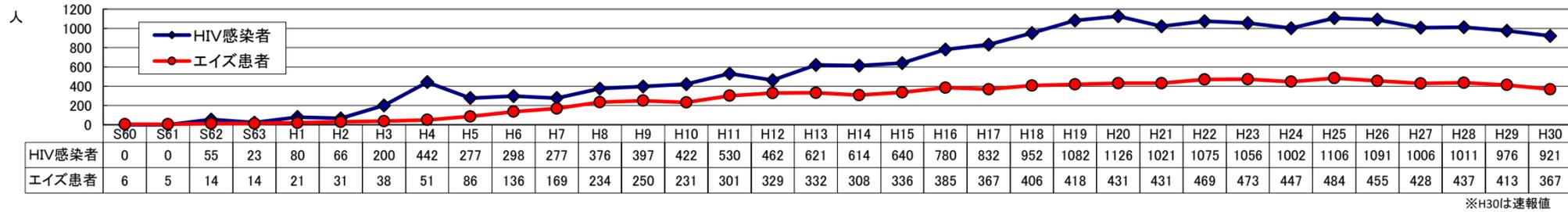
【今後について】

- ・今後も若い世代への啓発・教育を継続するとともに、各関係機関やボランティアグループ等と連携して効果的な啓発方法を検討していく。
- ・検査体制の整備については、引き続き、市民の利便性に配慮して行っていく。特に、リスクがあると考えられる方への対応等については、有識者の意見等も参考にしながら実施していく。

(参考資料)統計「エイズ及び性感染症の動向」

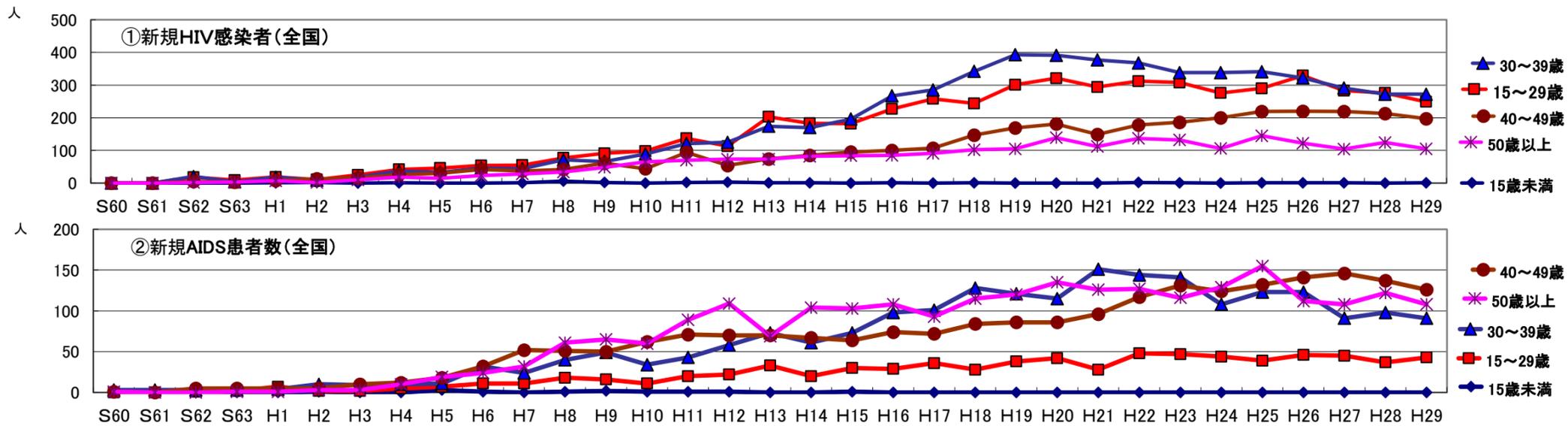
■全国のHIV感染者・エイズ患者報告数推移

1. 年次推移(全国)



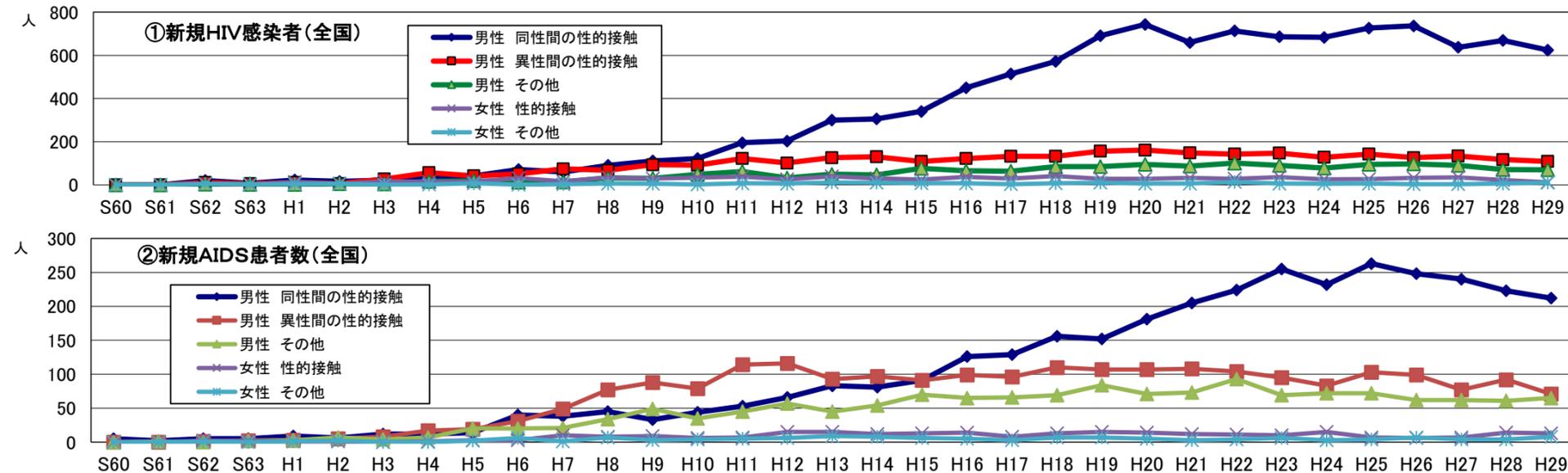
累計
感染者 20,221
患者 9,828
感染者患者累計 30,049

2. 年齢階級別推移(日本国籍のみ)



3. 感染経路別推移(日本国籍のみ)

※同性間は両性間を含む。その他は不明を含む。



出典 1～3:厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告

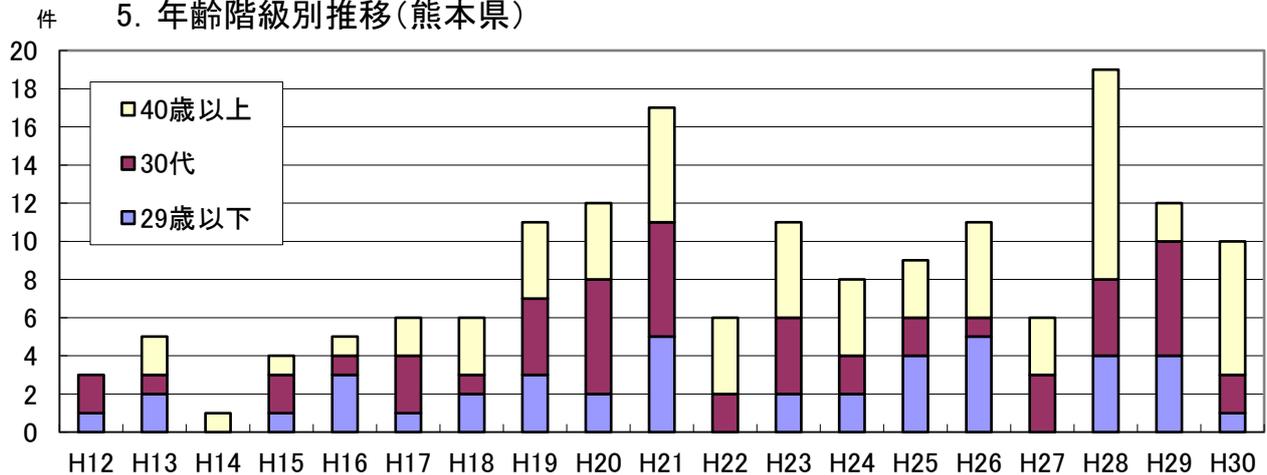
■熊本県のHIV感染者・エイズ患者報告数推移

4. 熊本県のHIV感染者・エイズ患者報告数の年次推移



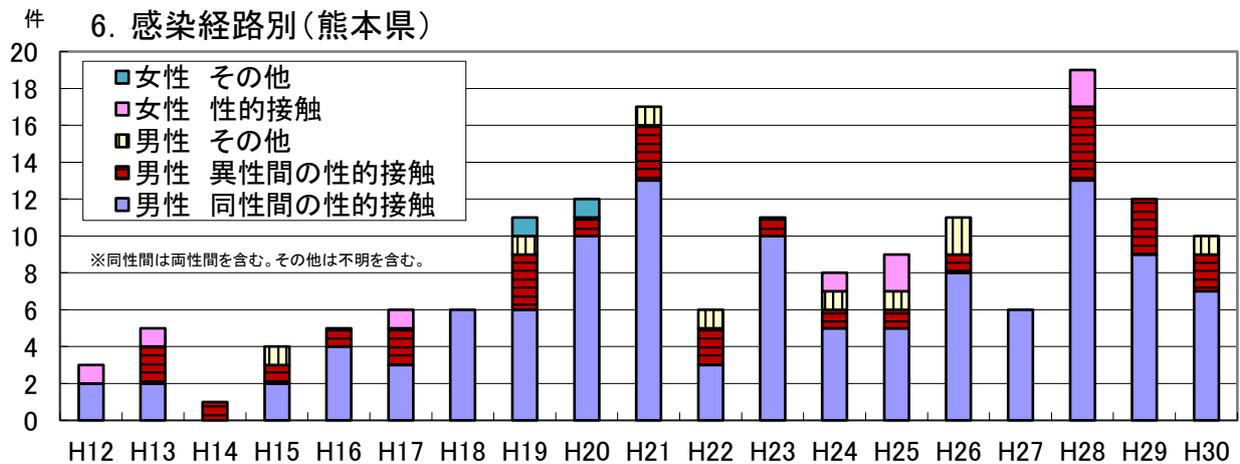
感染者累計 107
 患者累計 68
 感染者患者累計 175

5. 年齢階級別推移(熊本県)



H12 H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30

6. 感染経路別(熊本県)

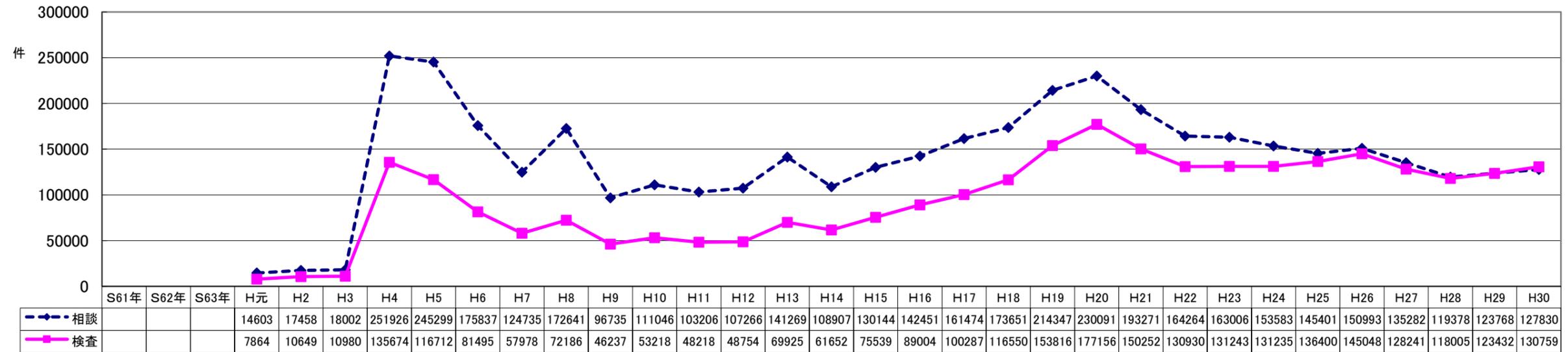


H12 H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30

出典 4~6: 感染症発生動向調査事業

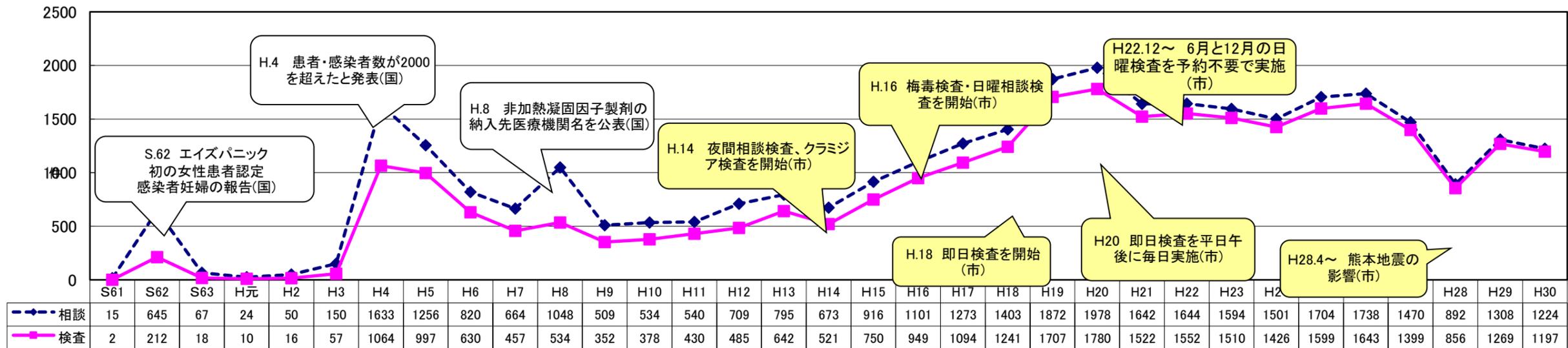
■エイズ相談・検査数推移

7. 保健所などにおけるエイズ相談・検査件数(全国)



出典 7 : 厚生労働省エイズ動向委員会によるエイズ発生動向年報及びエイズ動向委員会報告

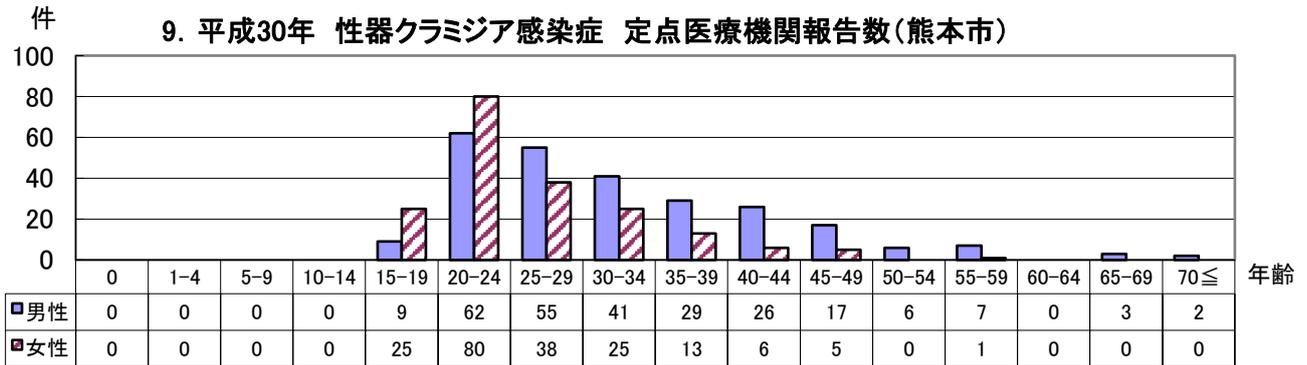
8. エイズ相談・検査件数(熊本市)



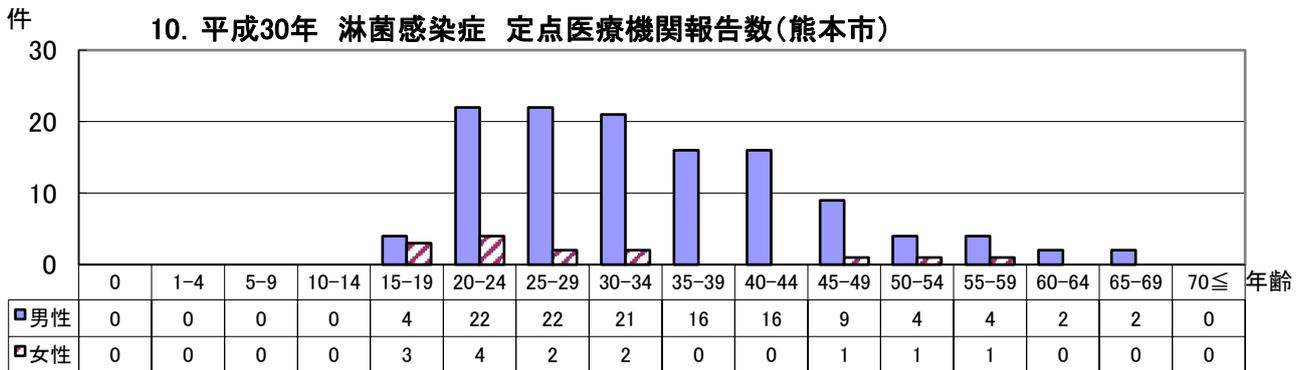
■ 性感染症の発生動向

※定点把握：STD定点医療機関から月1回の報告により発生状況を把握
(平成25年1月から熊本市のSTD定点数が5から6に増加)

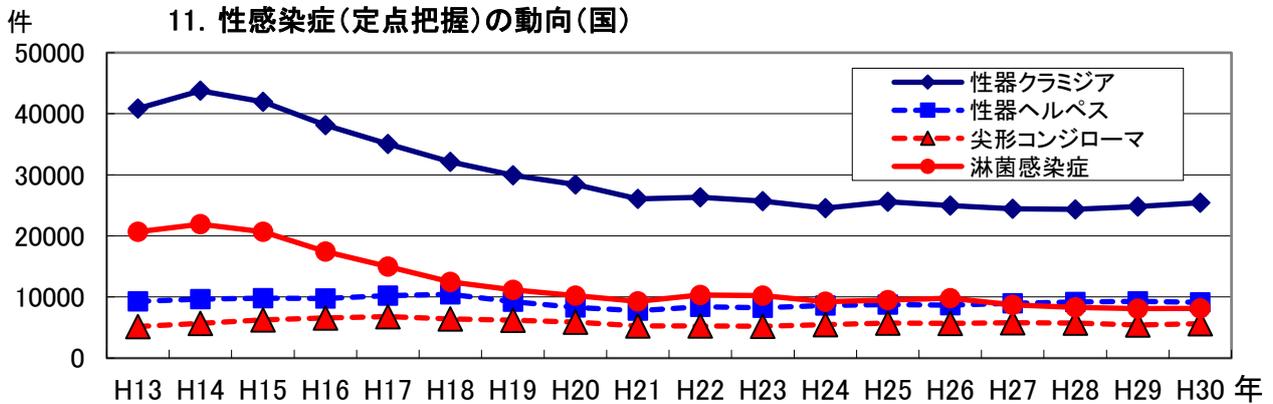
9. 平成30年 性器クラミジア感染症 定点医療機関報告数(熊本市)



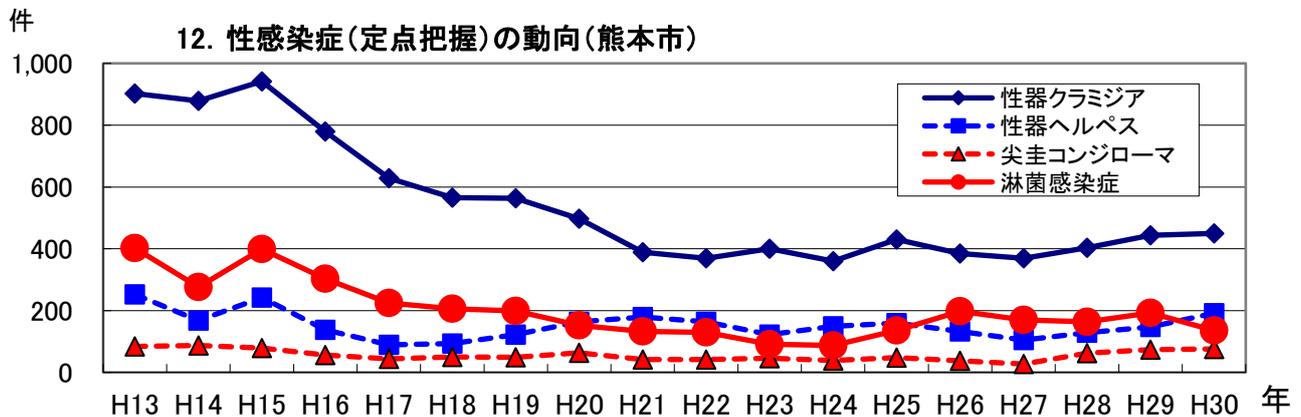
10. 平成30年 淋菌感染症 定点医療機関報告数(熊本市)



11. 性感染症(定点把握)の動向(国)



12. 性感染症(定点把握)の動向(熊本市)

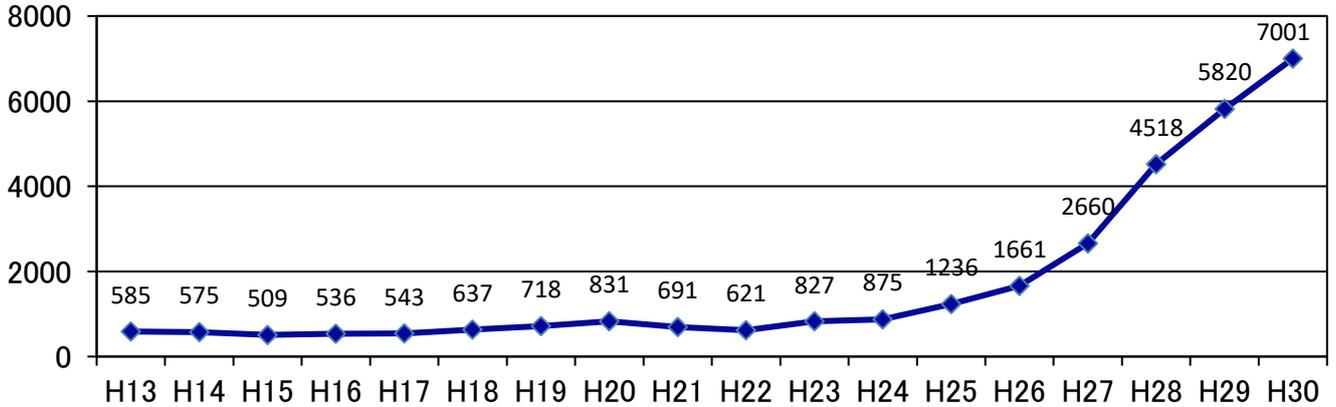


■梅毒の動向

※全数把握：診断した医師からの7日以内の届出により全数を把握

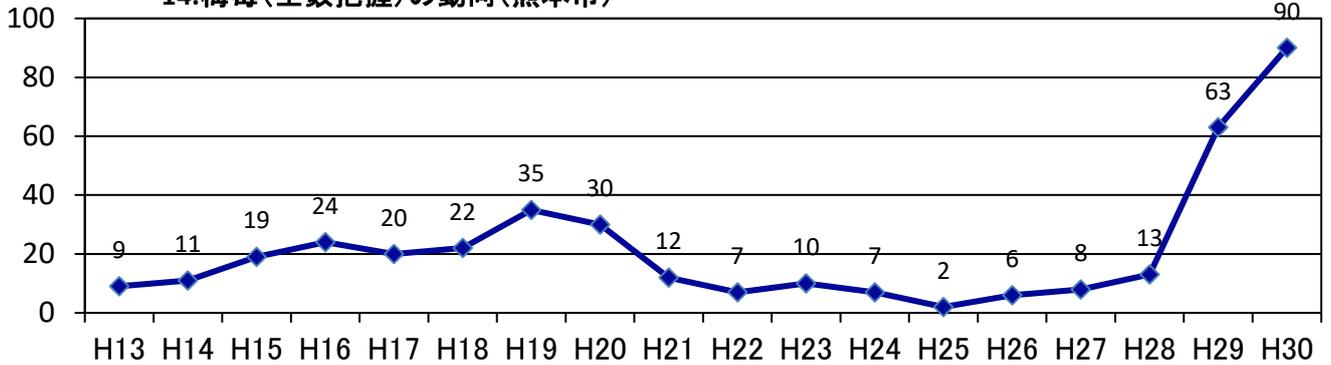
件

13.梅毒(全数把握)の動向(国)



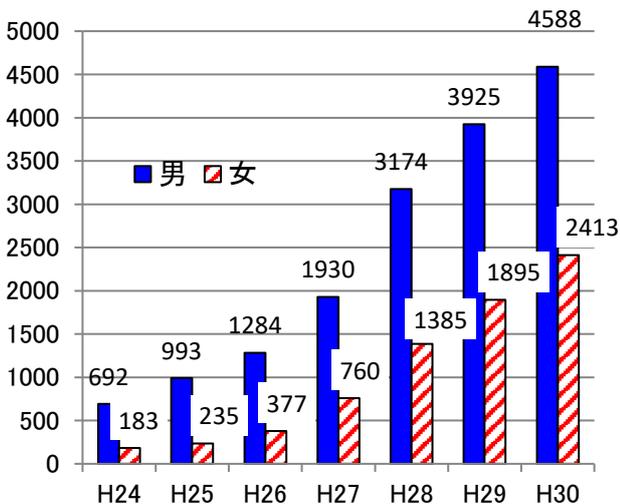
出典 13、15:感染症発生動向調査事業

14.梅毒(全数把握)の動向(熊本市)

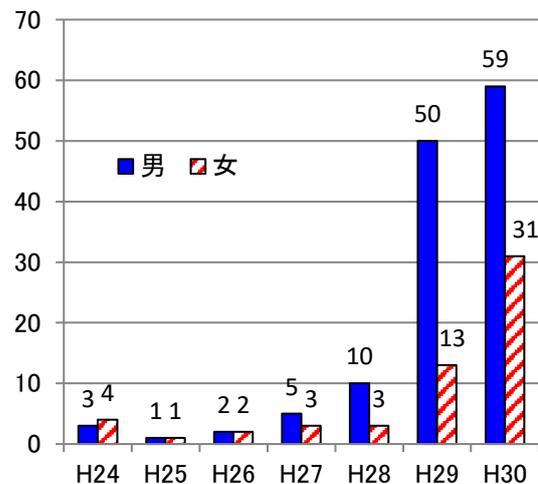


件

15.梅毒の動向(男女別・国)



16.梅毒の動向(男女別・熊本市)



《平成30年 年間報告（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成30年1月1日～平成30年12月30日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者報告数は921件で過去13位
3. 新規AIDS患者報告数は367件で過去14位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,288件で過去13位

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが656件（全HIV感染者報告数の約71%）
 - 異性間性的接触によるものが156件（全HIV感染者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが202件（全AIDS患者報告数の約55%）
 - 異性間性的接触によるものが84件（全AIDS患者報告数の約23%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に30～40歳が多い。

【検査・相談件数の概況（平成30年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は130,759件で過去10位
2. 保健所等における相談件数（確定値）は127,830件で過去19位

《まとめ》

1. 速報値ではあるが、平成30年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成29年より減少しており、2年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年と比べて減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用いただきたい。
4. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、重要となる。国民の皆様には、性感染症を含め、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。

感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報

平成30年12月30日現在のHIV感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計

診断区分	感染経路	日本国籍			外国国籍			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
HIV感染者 合計		16,448	996	17,444	1,892	1,481	3,373	18,340	2,477	20,817
	異性間の性的接触	3,115	806	3,921	478	873	1,351	3,593	1,679	5,272
	同性間の性的接触 ^{*1}	11,631	4	11,635	843	1	844	12,474	5	12,479
	静注薬物使用	42	2	44	31	3	34	73	5	78
	母子感染	17	10	27	7	9	16	24	19	43
	その他 ^{*2}	347	40	387	73	29	102	420	69	489
	不明	1,296	134	1,430	460	566	1,026	1,756	700	2,456
エイズ患者 合計^{*3}		7,511	413	7,924	954	425	1,379	8,465	838	9,303
	異性間の性的接触	2,307	273	2,580	312	234	546	2,619	507	3,126
	同性間の性的接触 ^{*1}	3,685	3	3,688	194	2	196	3,879	5	3,884
	静注薬物使用	29	4	33	28	3	31	57	7	64
	母子感染	9	3	12	1	6	7	10	9	19
	その他 ^{*2}	209	26	235	33	17	50	242	43	285
	不明	1,272	104	1,376	386	163	549	1,658	267	1,925
HIV感染者+エイズ患者 合計		23,959	1,409	25,368	2,846	1,906	4,752	26,805	3,315	30,120
凝固因子製剤による感染者^{*4}		1,421	18	1,439	—	—	—	1,421	18	1,439

*1 両性間性的接触を含む。

*2 輸血などに伴う感染例、推定される感染経路が複数ある例を含む。

*3 平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。

*4「血液凝固異常症全国調査」による2018年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数

感染症法施行後の任意報告数(平成11年4月1日～平成30年12月30日)	413 名
エイズ予防法 ^{*5} に基づく法定報告数(平成元年2月17日～平成11年3月31日)	596 名
凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数 ^{*6}	717 名

*5 エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。

*6 「血液凝固異常症全国調査」による2018年5月31日現在の報告数

感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報

HIV感染者及びエイズ患者の都道府県別累積報告状況

(平成30年10月1日～平成30年12月30日)

ブロック名	都道府県名	HIV感染者						エイズ患者									
		今回		前回	累計		今回		前回	累計							
		報告地	〔居住地〕		報告地	〔居住地〕	報告地	〔居住地〕		報告地	〔居住地〕						
北海道	1 北海道	5	〔4〕	3	〔2〕	333	1.6%	〔215〕	〔2.0%〕	1	〔0〕	3	〔3〕	197	2.1%	〔108〕	〔2.2%〕
東北	2 青森県	0	〔0〕	2	〔2〕	59	0.3%	〔26〕	〔0.2%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	34	0.4%	〔15〕	〔0.3%〕
	3 岩手県	0	〔0〕	0	〔0〕	31	0.2%	〔13〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	1	〔0〕	37	0.4%	〔17〕	〔0.3%〕
	4 宮城県	2	〔2〕	2	〔1〕	148	0.7%	〔76〕	〔0.7%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	99	1.1%	〔59〕	〔1.2%〕
	5 秋田県	0	〔0〕	0	〔0〕	23	0.1%	〔8〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔1〕	24	0.3%	〔12〕	〔0.2%〕
	6 山形県	0	〔0〕	0	〔0〕	29	0.1%	〔14〕	〔0.1%〕	1	〔0〕	1	〔1〕	26	0.3%	〔7〕	〔0.1%〕
	7 福島県	0	〔0〕	0	〔0〕	84	0.4%	〔49〕	〔0.5%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	59	0.6%	〔30〕	〔0.6%〕
	ブロック計	2	〔2〕	4	〔3〕	374	1.8%	〔186〕	〔1.7%〕	2	〔1〕	2	〔2〕	279	3.0%	〔140〕	〔2.9%〕
関東・甲信越	8 茨城県	4	〔2〕	4	〔4〕	557	2.7%	〔156〕	〔1.5%〕	1	〔1〕	1	〔1〕	335	3.6%	〔98〕	〔2.0%〕
	9 栃木県	2	〔2〕	3	〔2〕	266	1.3%	〔88〕	〔0.8%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	207	2.2%	〔67〕	〔1.4%〕
	10 群馬県	1	〔1〕	3	〔4〕	209	1.0%	〔90〕	〔0.8%〕	1	〔1〕	2	〔2〕	153	1.6%	〔56〕	〔1.1%〕
	11 埼玉県	2	〔11〕	5	〔9〕	571	2.8%	〔493〕	〔4.6%〕	1	〔2〕	5	〔5〕	378	4.1%	〔219〕	〔4.5%〕
	12 千葉県	7	〔5〕	6	〔7〕	866	4.2%	〔477〕	〔4.5%〕	5	〔3〕	5	〔6〕	574	6.2%	〔248〕	〔5.1%〕
	13 東京都	95	〔70〕	88	〔62〕	7,737	37.3%	〔3,288〕	〔30.8%〕	22	〔23〕	20	〔15〕	2,288	24.7%	〔1,027〕	〔20.9%〕
	14 神奈川県	15	〔15〕	10	〔10〕	1,372	6.6%	〔742〕	〔6.9%〕	6	〔4〕	10	〔9〕	669	7.2%	〔306〕	〔6.2%〕
	15 新潟県	0	〔0〕	1	〔2〕	104	0.5%	〔43〕	〔0.4%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	62	0.7%	〔27〕	〔0.5%〕
	16 山梨県	0	〔0〕	0	〔1〕	119	0.6%	〔40〕	〔0.4%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	52	0.6%	〔15〕	〔0.3%〕
	17 長野県	1	〔1〕	5	〔5〕	327	1.6%	〔81〕	〔0.8%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	209	2.3%	〔61〕	〔1.2%〕
ブロック計	127	〔107〕	125	〔106〕	12,128	58.4%	〔5,498〕	〔51.5%〕	36	〔34〕	45	〔40〕	4,927	53.1%	〔2,124〕	〔43.3%〕	
北陸	18 富山県	1	〔0〕	0	〔0〕	46	0.2%	〔25〕	〔0.2%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	36	0.4%	〔19〕	〔0.4%〕
	19 石川県	2	〔2〕	1	〔0〕	87	0.4%	〔51〕	〔0.5%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	40	0.4%	〔25〕	〔0.5%〕
	20 福井県	1	〔1〕	0	〔0〕	50	0.2%	〔26〕	〔0.2%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	35	0.4%	〔25〕	〔0.5%〕
ブロック計	4	〔3〕	1	〔0〕	183	0.9%	〔102〕	〔1.0%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	111	1.2%	〔69〕	〔1.4%〕	
東海	21 岐阜県	4	〔5〕	3	〔5〕	183	0.9%	〔141〕	〔1.3%〕	3	〔2〕	2	〔0〕	136	1.5%	〔97〕	〔2.0%〕
	22 静岡県	4	〔4〕	6	〔5〕	448	2.2%	〔182〕	〔1.7%〕	1	〔1〕	1	〔1〕	227	2.4%	〔99〕	〔2.0%〕
	23 愛知県	15	〔14〕	24	〔21〕	1,234	5.9%	〔721〕	〔6.8%〕	5	〔5〕	3	〔4〕	629	6.8%	〔475〕	〔9.7%〕
	24 三重県	2	〔1〕	2	〔2〕	171	0.8%	〔91〕	〔0.9%〕	1	〔1〕	1	〔1〕	102	1.1%	〔60〕	〔1.2%〕
ブロック計	25	〔24〕	35	〔33〕	2,036	9.8%	〔1,135〕	〔10.6%〕	10	〔9〕	7	〔6〕	1,094	11.8%	〔731〕	〔14.9%〕	
近畿	25 滋賀県	2	〔2〕	2	〔2〕	89	0.4%	〔57〕	〔0.5%〕	3	〔3〕	1	〔2〕	74	0.8%	〔44〕	〔0.9%〕
	26 京都府	5	〔6〕	4	〔5〕	268	1.3%	〔171〕	〔1.6%〕	1	〔1〕	4	〔3〕	137	1.5%	〔75〕	〔1.5%〕
	27 大阪府	31	〔25〕	38	〔30〕	2,657	12.8%	〔1,472〕	〔13.8%〕	6	〔5〕	13	〔12〕	876	9.4%	〔631〕	〔12.9%〕
	28 兵庫県	3	〔5〕	8	〔7〕	452	2.2%	〔349〕	〔3.3%〕	1	〔1〕	3	〔1〕	245	2.6%	〔154〕	〔3.1%〕
	29 奈良県	1	〔1〕	1	〔0〕	115	0.6%	〔67〕	〔0.6%〕	0	〔0〕	1	〔1〕	79	0.9%	〔49〕	〔1.0%〕
	30 和歌山県	1	〔1〕	0	〔0〕	71	0.3%	〔46〕	〔0.4%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	53	0.6%	〔20〕	〔0.4%〕
ブロック計	43	〔40〕	53	〔44〕	3,652	17.6%	〔2,162〕	〔20.2%〕	12	〔11〕	22	〔19〕	1,464	15.8%	〔973〕	〔19.8%〕	
中国・四国	31 鳥取県	0	〔0〕	0	〔1〕	18	0.1%	〔10〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	19	0.2%	〔16〕	〔0.3%〕
	32 島根県	0	〔0〕	0	〔0〕	20	0.1%	〔12〕	〔0.1%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	9	0.1%	〔3〕	〔0.1%〕
	33 岡山県	3	〔1〕	6	〔5〕	171	0.8%	〔116〕	〔1.1%〕	2	〔0〕	0	〔0〕	85	0.9%	〔48〕	〔1.0%〕
	34 広島県	2	〔3〕	4	〔3〕	239	1.2%	〔139〕	〔1.3%〕	1	〔0〕	2	〔1〕	131	1.4%	〔101〕	〔2.1%〕
	35 山口県	1	〔1〕	1	〔1〕	70	0.3%	〔49〕	〔0.5%〕	2	〔2〕	1	〔2〕	31	0.3%	〔23〕	〔0.5%〕
	36 徳島県	0	〔0〕	2	〔2〕	45	0.2%	〔36〕	〔0.3%〕	1	〔1〕	2	〔2〕	31	0.3%	〔22〕	〔0.4%〕
	37 香川県	0	〔0〕	0	〔0〕	70	0.3%	〔50〕	〔0.5%〕	0	〔0〕	0	〔0〕	50	0.5%	〔39〕	〔0.8%〕
	38 愛媛県	1	〔0〕	1	〔1〕	88	0.4%	〔40〕	〔0.4%〕	1	〔2〕	0	〔0〕	62	0.7%	〔38〕	〔0.8%〕
	39 高知県	1	〔1〕	0	〔0〕	47	0.2%	〔33〕	〔0.3%〕	0	〔0〕	0	〔1〕	36	0.4%	〔30〕	〔0.6%〕
	ブロック計	8	〔6〕	14	〔13〕	768	3.7%	〔485〕	〔4.5%〕	7	〔5〕	5	〔6〕	454	4.9%	〔320〕	〔6.5%〕
九州・沖縄	40 福岡県	11	〔11〕	13	〔13〕	605	2.9%	〔437〕	〔4.1%〕	5	〔3〕	15	〔12〕	334	3.6%	〔260〕	〔5.3%〕
	41 佐賀県	2	〔2〕	1	〔0〕	41	0.2%	〔40〕	〔0.4%〕	0	〔0〕	1	〔2〕	23	0.2%	〔25〕	〔0.5%〕
	42 長崎県	1	〔1〕	0	〔1〕	56	0.3%	〔33〕	〔0.3%〕	0	〔1〕	0	〔0〕	38	0.4%	〔22〕	〔0.4%〕
	43 熊本県	1	〔1〕	2	〔2〕	106	0.5%	〔61〕	〔0.6%〕	2	〔2〕	1	〔1〕	67	0.7%	〔50〕	〔1.0%〕
	44 大分県	1	〔1〕	2	〔2〕	63	0.3%	〔41〕	〔0.4%〕	3	〔2〕	1	〔1〕	39	0.4%	〔30〕	〔0.6%〕
	45 宮崎県	1	〔2〕	1	〔1〕	63	0.3%	〔51〕	〔0.5%〕	1	〔1〕	0	〔0〕	48	0.5%	〔38〕	〔0.8%〕
	46 鹿児島県	3	〔2〕	1	〔1〕	102	0.5%	〔73〕	〔0.7%〕	0	〔0〕	0	〔1〕	74	0.8%	〔46〕	〔0.9%〕
	47 沖縄県	2	〔1〕	4	〔2〕	254	1.2%	〔160〕	〔1.5%〕	2	〔0〕	2	〔2〕	126	1.4%	〔70〕	〔1.4%〕
ブロック計	22	〔21〕	24	〔22〕	1,290	6.2%	〔896〕	〔8.4%〕	13	〔9〕	20	〔19〕	749	8.1%	〔541〕	〔11.0%〕	
合計	236	〔207〕	259	〔223〕	20,764	100%	〔10,679〕	〔100.0%〕	81	〔69〕	104	〔95〕	9,275	100%	〔4,910〕	〔100.0%〕	

※〔報告地〕:昭和60年から集計

※〔居住地〕:最近数年間の主な居住地(平成19年4月から記載)

後天性免疫不全症候群発生届出(抜粋)

①最近数年間の主な居住地

- 1)日本国内(都道府県)
- 2)その他()
- 3)不明

熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱

制定	平成 8 年 6 月 1 7 日	市長決裁
改正	平成 1 0 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 1 1 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 1 4 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 1 8 年 4 月 1 日	健康福祉局長決裁
	平成 2 1 年 6 月 3 0 日	感染症対策課長決裁
	平成 2 2 年 1 0 月 1 日	感染症対策課長決裁
	平成 2 4 年 4 月 1 日	感染症対策課長決裁
	平成 2 8 年 4 月 1 日	感染症対策課長決裁

(設置)

第1条 エイズについての正しい知識の普及啓発の在り方を総合的に検討し、エイズに対する偏見や差別のない「健康と生命（いのち）」を大切にするまちづくりに寄与することを目的として熊本市エイズ総合対策推進会議（以下「会議」という。）を設置する。

(協議事項)

第2条 会議は、次の事項について協議する。

- (1) エイズの正しい知識に関する広報・啓発に関すること。
- (2) エイズ相談及び検査に関すること。
- (3) 関係機関との連絡、調整及び協力に関すること。
- (4) その他この要綱の目的の達成に必要な事項に関すること。

(構成)

第3条 会議は、20名以内の委員によって構成する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 保健・医療関係者
- (3) 教育、青少年団体関係者
- (4) 人権擁護関係者
- (5) 企業・事業所関係者
- (6) 労働団体関係者
- (7) 報道関係者
- (8) ボランティア団体関係者
- (9) その他必要と認める者

(会長及び副会長)

第4条 会議に、会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会議を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときはその職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とし、再選を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 会議は、必要に応じて会長が招集する。

2 会長は、運営上必要があると認めるときは、委員以外のものを会議に出席させ、その意見又は説明を求めることができる。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、熊本市健康福祉局保健衛生部感染症対策課に置く。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮り定める。

附 則

この要綱は、平成8年6月17日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成21年6月30日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成22年10月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から改正施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から改正施行する。

熊本市におけるエイズ対策のあゆみ

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
1986 (S61)	保健所・保健センターにエイズ相談窓口を設置	
1987 (S62)	H I V抗体検査実施（検査機関委託 有料）	
1991 (H 3)	エイズ相談及びH I V抗体検査実施要領を作成	
1992 (H 4)	エイズ対策特別予算計上 熊本市エイズ対策連絡会議を設置	世界エイズデー関連 エイズ講演会開催
1993 (H 5)	熊本市エイズ総合対策実施要領を作成 H I V抗体検査を無料で開始 熊本保健所に専門相談員を配置、英語相談開始 抗体検査の検査機器の整備と保健所で検査開始 市民病院にエイズ医療相談及び診療体制を整備	エイズシンポジウム(熊本市、サンアントニオ市)
1994 (H 6)	西保健所に専門相談員を設置 エイズ拠点病院の指定（熊本大学医学部付属病院、国立熊本病院、熊本市市民病院） 市民病院職員サンアントニオ市派遣	エイズ講演会(サンアントニオ市、ハイデルベルク市より講師招聘) 世界エイズデー関連 パネル展
1995 (H 7)	市民病院職員サンアントニオ市派遣	世界エイズデー関連 パネル展、講演会
1996 (H 8)	熊本市エイズ総合対策推進会議設置要綱策定 熊本市エイズ総合対策推進会議の設置と開催 市民病院職員サンアントニオ市派遣	世界エイズデー関連 エイズ・フォーラム 街頭キャンペーン、パネル展、ラジオエイズ特集放送
1997 (H 9)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	世界エイズデー関連 エイズ・フォーラム 映画「コスモス」上映、街頭キャンペーン ラジオエイズ特集放送
1998 (H10)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	高校文化祭でのキャンペーン(アンケート調査) 大学学園祭でのキャンペーン(アンケート調査) 世界エイズデー関連 街頭キャンペーン ラジオ
1999 (H11)	エイズ対策主管課を感染症対策課に移行 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 感染症新法施行、エイズ予防指針策定	高校・大学でのキャンペーン(アンケート調査) 高校・専門学校等への講師派遣 世界エイズデー関連 街頭キャンペーン ラジオ
2000 (H12)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 S T D予防指針策定	高校・大学でのキャンペーン(アンケート調査) 高校・専門学校等への講師派遣、S T D講演会・キャンペーン、オリジナルポスター(S T D、エイズ)、 世界エイズデー街頭キャンペーン：ラジオエイズ特集放送、A R K(学生啓発ボランティア)結成
2001 (H13)	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 第1回エイズ関連市民グループ合同会議開催	大学でのキャンペーン(アンケート調査) 高校・専門学校等への講師派遣 オリジナルポスター(S T D、エイズ) 世界エイズデー関連 街頭キャンペーン ピアエドゥケーター(A R K、P D Y Y Y)の出前講座
2002 [H14]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 夜間エイズ相談・検査を実施(6月～)	同上
2003 [H15]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	同上、ラジオ生番組、
2004 [H16]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 日曜エイズ相談・検査を実施(5月～)	同上
2005 [H17]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催	大学でのキャンペーン(アンケート調査) 高校・専門学校等への講師派遣、オリジナルポスター(S T D、エイズ)、世界エイズデー関連 街頭キャンペーン、ピアエドゥケーターの出前講座
2006 [H18]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 H I V即日検査を実施(水曜午前：4月～、日曜：6月～)	同上
2007 [H19]	同上	同上

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
2008 [H20]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 HIV即日検査の枠の増大（平日午後、夜間、日曜）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校でキャンペーンを実施
2009 [H21]	同上	同上
2010 [H22]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 HIV即日検査の枠の増大（平日午後受入人数を増加：11月～） 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：12月）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施
2011 [H23]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月）	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等）
2012 [H24]	同上	同上
2013 [H25]	同上	大学生ボランティアスタッフと企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等） Safe LOVE Kumamoto (SaLK) 結成（学生を中心とした啓発ボランティアグループ）、街頭キャンペーン実施
2014 [H26]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月） 夜間検査枠拡充及びメール予約受付の試行（6～8月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付（10月～）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 ・街頭キャンペーンの実施 「働く世代」への出前講座（一般企業等） ゲイ支援サークル（KK）との連絡会、情報交換
2015 [H27]	熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（9月） 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校・大学でキャンペーン実施 ・市人権推進総室主催「人権映画上映会（フィラデルフィア上映）」でのキャンペーン 「働く世代」への出前講座（一般企業等） 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の開始 ・高校、専門学校、イベント会場等 ゲイ支援サークル（KK※）との協働 ※28年2月に Safety Blanket に改称
2016 [H28]	（4月14,16日 熊本地震発生） 検査体制の縮小、変則実施 特例検査の実施（予約不要の休日即日検査：6月、12月、3月） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（2月）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校、市内イベント会場でキャンペーン実施 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の実施 ・高校、講習会及びイベント会場等 「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety Blanket）との協働
2017 [H29]	夜間・休日検査を休止、通常検査を予約制 特例・臨時検査の実施（6月・12月：予約不要の日曜検査、10月：予約制の夜間検査、3月：予約不要の土曜検査） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付 熊本市エイズ総合対策推進会議の開催（8月）	大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施 ・高校でキャンペーン実施 ・市学校保健会主催イベントでのキャンペーン ・エイズフォーラムの開催（JICA九州） 巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の実施 ・高校、講習会及びイベント会場等 「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety Blanket）との協働

年度	体制の整備等	キャンペーン等の実施状況
2018 [H30]	<p>夜間・休日検査を休止、通常検査を予約制 特例・臨時検査の実施（6月、12月、3月：予約不要の休日検査、7月、10月：予約制の夜間検査） 平日午後の即日検査を対象にメール予約受付熊 本市エイズ総合対策推進会議の開催（8月）</p>	<p>大学生ボランティアスタッフ等と企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズフォーラムの開催（JICA九州） ・高校・大学でキャンペーン実施 ・市学校保健会主催イベントでのキャンペーン ・街頭キャンペーン実施（TSUTAYA 三年坂店） <p>巡回パネル展「HIV×(日常)×わたし。」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校、講習会及びイベント会場等 <p>「働く世代」への出前講座（一般事業所等） ゲイ支援サークル（Safety Blanket）との協働</p>